

副産物情勢

3月5日

更新

JA全農ミートフーズ株式会社

項 目		内 容	備 考
内 臓	1.国産牛	○ 令和3年1月の成牛と畜頭数は、78.7千頭(前年比96.4%、前月比81.0%)となった。 内訳を見ると、和牛33.8千頭(前年比97.6%)、交雑牛17.4千頭(同95.5%)、乳牛去勢12.3千頭(同 92.7%)であった。 ○ 令和3年2月の成牛と畜頭数は、速報値(2/26まで集計)で75.0千頭(前年比96.9%)と前年を下回った。 ○ (独)農畜産業振興機構が2月24日に公表した牛肉の需給予測によると、3月の生産量は全ての品種で出荷頭数の増加が見込まれることから、前年同月をかなりの程度上回ると予測している。 3ヶ月平均(1～3月)について、出荷頭数・生産量ともに前年同期をわずかに下回ると予測している。 ○ 需要動向は、緊急事態宣言下における外食需要低迷で全品目的に荷動きが悪く、普段流通するホホ肉やハラミ也大苦戦している状況である。 小腸・シマチョウは輸入原料の代替で引合いは強いものの、ハツやギアラはと場で一部廃棄されている話を聞く。 ○ 外食需要が以前のように回復するには時間がかかると思われるため、肉食・中食業態へのアプローチがより求められるだろう。	1.東京市場内臓価格 単位:円/枝肉kg 価格改定 年 月 日 牛内臓 豚内臓 平成26年11月10日 35/枝kg 9/枝kg 平成28年6月6日 40/枝kg 9/枝kg 平成31年4月1日 45/枝kg 9/枝kg 令和2年4月20日 25/枝kg 5/枝kg 令和2年7月 1日 35/枝kg 7/枝kg 令和3年1月 25日 25/枝kg 5/枝kg ※乳牛も同様25円/kg ※豚正貫物
	2.国産豚	○ 令和3年1月度全国の肉豚出荷頭数は1,417千頭(農林水産統計2/26公表 前年同月比98.2%、前月比93.3%)となった。 1月の全国地域別出荷頭数を前年同月比で見ると、北海道100.8%、東北98.3%、関東99.9%、北陸甲信越95.7%、東海104.2%、近畿94.4%、中四国95.9%、九州・沖縄95.9%となった。 ○ 令和3年2月の全国と畜頭数は、速報値で1,269千頭(2/26まで集計)、前年同月比96.0%となっている。稼働日数では昨年同様の18日となり、1日当たりの平均と畜頭数は速報値段階で70,528頭となっている。(前年は73,485頭/日) ○ 農水省食肉鶏卵課令和3年2月24日付肉豚生産出荷予測によると、今後の出荷予測頭数は令和3年3月1,405千頭(前年同月比98%)、4月1,367千頭(同94%)、5月1,332千頭(同103%)、6月1,286千頭(同97%)となっている。 ○ 需要動向は、緊急事態宣言下における外食需要低迷はあるものの、肉食・中食メーカー需要で牛内臓ほど動きは鈍くなっていない。 但し、外食業態の使用が多いレバー・直腸は市中在庫が重く、季節要因で堅調な白物の動きが落ち着けば各社の在庫は膨れ上がることが予想される。 ○ 情勢不調に加えて、地方の人手不足・海外実習生の派遣停滞でと場による廃棄が増加しているようだ。	2.大阪市場内臓価格 単位:円/枝肉kg 価格改定 年 月 日 牛内臓 豚内臓 平成26年11月10日 35/枝kg 5/枝kg 平成28年5月30日 40/枝kg 5/枝kg 平成31年4月1日 45/枝kg 5/枝kg 令和2年4月20日 25/枝kg 3/枝kg 令和2年7月 1日 35/枝kg 4/枝kg 令和3年1月 25日 25/枝kg 3/枝kg
	3.輸入牛	○ 令和3年1月の輸入通関実績によると牛肉輸入量は全体で44.0千ﾄﾝ(前年比92.9%、前月比89.3%)となった。 内訳は、チルドが20.6千ﾄﾝ(前年比100.8%、前月比87.3%)、フローズンが23.3千ﾄﾝ(同 86.9%、同 91.3%)となった。 チルド輸入量は港湾の混雑などの影響等で米国・カナダが前年割れとなったものの、入船遅れで減少していた豪州産が回復したことなどにより前年を上回り、フローズンはチルド同様に米国・カナダが前年割れとなり、全体として前年を下回る結果となった。 ○ (独)農畜産業振興機構が2月24日に公表した牛肉の需給予測によると、チルド輸入量は北米からの入船遅れの影響、米国・豪州における現地価格の高騰等から、2月は前年をわずかに下回り、3月は大幅に下回ると予測している。 フローズン輸入量について、2月は前年同月並みを予測しているが、3月はチルド品と同様に現地価格高騰等が影響して前年をわずかに下回ると予測している。 ○ 令和3年1月の冷凍輸入牛レバーは74.2ﾄﾝ(前年比47.9%・前月比82.9%)で、国別では米国52.8t、豪州21.4t、墨国なしであった。 冷凍輸入牛腸は1,021ﾄﾝ(前年比78.1%・前月比121.1%)で、国別では米国618.5t、豪州273.2t、墨国61.1t、加奈陀68.0tとなった。	3.東京市場原皮価格 *交雑牛含む 単位:円/枚 価格改定 年 月 日 牛原皮(和牛) 豚原皮 平成30年11月1日 1,000/枚 100/枚 平成31年1月5日 1,000/枚 30/枚 令和元年7月22日 700/枚 10/枚 令和2年3月16日 500/枚 10/枚 令和2年6月15日 100/枚 10/枚 令和2年7月20日 100/枚 2/枚 令和2年9月28日 10/枚 2/枚
原 皮	1.牛原皮	○ 令和3年1月の輸出実績は、44,755枚(前年比156.0%、前月比91.6%)で、前年を大幅に上回った。輸出平均価格は1,709円/枚(前年比－434円、前月比＋282円)で、5カ月連続で前月比がプラスに転じた。 国別実績は、タイ21,070枚(前年比101.6%)、ベトナム11,760枚(同725.0%)、韓国11,925枚(同345.7%)のみで、香港は実績がなかった。一方、ウエットブルーの輸入は、8.2千枚(前年比34.9%、前月比58.8%)、牛大判皮は12.3千枚(前年比35.2%、前月比68.0%)となった。 ○ 2020年1～12月実績では474千枚(牛原皮発生量の47%)が輸出され、輸出平均価格は1,292円/枚であった。 ○ 海外情勢は自動車・家具用に回復の兆しはあるが、米国の輸出価格も上がっていることから市場供給枚数が増加し、流通価格の回復にブレーキがかかることが懸念される。 ○ 国内情勢は百貨店・専門店の袋物が依然として苦戦していることから、荷動きが回復するには少し時間がかかるだろう。(＝牛原皮が高く評価されない)	4.大阪市場原皮価格 *交雑牛含む 単位:円/枚 価格改定 年 月 日 牛原皮(和ヌキ) 豚原皮 平成31年1月28日 1,300/枚 30/枚 令和元年7月16日 1,000/枚 30/枚 令和元年8月15日 1,000/枚 10/枚 令和2年3月16日 800/枚 10/枚 令和2年6月22日 300/枚 10/枚 令和2年7月27日 300/枚 2/枚 令和2年9月28日 10/枚 2/枚
	2.豚原皮	○ 令和3年1月の輸出実績は、916,924枚(前年比97.4%、前月比71.7%)で、前年・前月ともに下回った。輸出平均価格は436円/枚(前年比－8円、前月比＋12円)となった。 国別実績は、タイ723.8千枚(前年比98.2%)、ベトナム121.7千枚(同156.2%)、韓国7千枚(同28.7%)、カンボジア64.4千枚(同63.3%)、香港・フィリピン・台湾・ミャンマーは実績なし。 ○ 需給動向としては中国の旧正月により大きな変化はないものの、2020年1～12月実績では12,971千枚(豚原皮発生量の約80%)が輸出された。 ○ 新型コロナウイルスの影響で輸出用コンテナの不足、海上運賃の値上がりはあるが、2020年1～12月輸出平均価格は358円/枚であった。	
レンダリング	1.油脂等	○ 2月渡しの国産食用加工油脂向け豚脂は80円/kg(据置き)、牛脂は90円/kg(前月5円/kg下げ)となった。 コロナ感染者数の再拡大、緊急事態宣言の影響で外食需要は停滞し、豚脂出荷は依然として厳しい状態である。 牛脂は値上げ基調だったが、原料供給量の増加、中国人観光客に人気の石鹸需要が減少したことから大手ファーストフードが堅調でも相場改定(値下げ)となった。 ○ 1月マレーシア産パーム油相場は、101円(前月－18円)となり、高値で推移している。要因は①減産(ラニーニャ現象による多雨、コロナ影響による農園労働者不足)、 、②シカゴ大豆・大豆油相場の高騰、③中国勢の旺盛な購買である。12月生産量は前月比10.6%減少し、月末在庫は126万トンとなった。2004年以来の低水準である。 ○ 1月の関東飼料用油脂は74円/kgと前月・前年とも同様であった。工業用油脂は45円/kgと前月・前年とも同様であった。 ○ 1月のUCオイル(ローリー)飼料用の関東標準価格は、前月・前年と同様の63円～66円/kg辺り。	5.油脂価格(食用向け) 単位:円/kg 価格改定年月日 牛脂 豚脂 令和2年2月1日 90 95 令和2年8月1日 95 95 令和2年9月1日 95 85 令和2年11月1日 95 80 令和3年2月1日 90 80